



2023-24 年度  
国際ロータリー会長  
ゴードン R. マッキナリー

# Weekly Report Niigata



2023~24 年度  
新潟ロータリークラブ会長

内山 博之

新潟 RC 10月第 2 例会 (2023.10.10) (Zoom 例会併催) No.3478

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 内山 博之会長挨拶

皆さん、こんにちは。秋も深まって参りまして、朝晩は暖房のいる季節となりました。

8 日に開催されました新潟シティマラソンに参加された方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。晴天の中気持ちよくランできたのではないかと思います。

さて、本日で我が々の住む町・新潟県のことについてあれこれ調べてお参りして、昨今は新潟だけではありませんが人口減少が社会問題となっておりますが、遠い昔は新潟県は全国で一番人口が多かった時代があったわけですが、その辺りのお話を中心にさせていただきます。新潟県の前進である「越後国」の名が書物に登場するのは、797 年にできた「続日本紀」であり、佐渡国も越後国とほぼ同時期にできたようです。江戸時代には、越後は村上・新発田・長岡・高田といった藩に分けられました。また、佐渡では金・銀がたくさんとれ、徳川幕府が直接治める地として幕府の財政を支えました。徳川幕府が倒れると、越後・佐渡は 11 の藩と越後府・佐渡県・柏崎県に分けられました。1871 年(明治 4 年)には藩をなくして県をおくことになり、越後は 13 県に分けられましたが、県の数が多すぎたので、新潟県・柏崎県・相川県の 3 つにまとめられました。その後 1873 年(明治 6 年)に柏崎県が、1876 年(明治 9 年)に相川県が新潟県に入り、1886 年(明治 19 年)に東蒲原郡が加わって現在の新潟県の姿になりました。このときの人口が約 163 万人で、全国 1 位でした。その後 1892 年(明治 25 年)まで全国 1 位でありましたが、翌年明治 26 年には、神奈川県の大田郡が東京府に編入されたことから、東京府の人口が一挙に増加したことにより、東京府に抜かれ、日清戦争後に大坂府にも抜かれて 3 位となり、さらに日露戦争後には、兵庫・愛知福岡の各県に抜かれ、1914

年(大正 3 年)には全国 6 位となりました。現在では、総人口が約 215 万人で全国 15 位となっております。平成 9 年をピークに 25 年連続減少が続いております。明治時代の人口調査は、転出届を出さずに農村から都市に流出した人をそのまま農村の人口と数えるなど、

農村が多めになる傾向があったとはいえ、明治 21 年には約 170 万人を超えていたわけです。では、なぜ新潟県は日本で一番人口が多かったのでしょうか。その理由は、ひとつは、米どころと言われるように、農業生産力に恵まれていたことが挙げられます。つまり多くの人を食わせていけるだけの豊かな土地があったからであります。

そしてもう一つの要因として、もともと日本海側は、江戸時代から北前船の航路として栄え、明治時代も日本海側が流通の要衝であり、港湾都市として栄えていたからであります。江戸時代から続く伝統産業である織物や製糸業、金物業も明治時代に入って生産が拡大され、近代工業の保護養成も進められてきました。加えて石油開発ブームが起こり、石油産業の拡大と同時に機械・化学などの関連工業が発展とともに、交通網も整備され、県内に多くの人々が流入するきっかけとなったそうです。しかしその後は、工業化で人口が急増した太平洋側の都市に次々に抜かれていったとのこと。このような歴史をたどり現在があるわけですが、いまなお新潟は、豊かな土地をもつ都市であるとともに、港湾都市でもあります。この資源を上手く活用しこれからの子供達の世代のために、更に発展し魅力的な都市になっていきたいものです。以上、本日の会長挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

ミャンマー、サンピア病院へ  
救急医薬品を寄贈してきました

(3) 徳永昭輝国際奉仕委員長報告（右記記載）

(4) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(佐藤 隆夫委員長)

小飯田 澄雄君 佐藤 隆夫君

宮島 多佳子君

青少年育成基金寄付発表(高山 克幸委員長)

本間 彊君 小飯田 澄雄君

(5) ニコニコボックス紹介（宮島多佳子委員長）

・佐藤 紳一君 ニイガタ City マラソン10Km 完走しました。後14年は走りたいです。その前に名古屋、アジア大会の準備をしなくてはと思っています。

・榎本 豊君 10/2に57歳となりました。2020年のボルドーワインをいただき、ありがとうございました。あと2~3年貯蔵してからいただきたいと思ひます。

(6) 米山月間に因み米山奨学生のスピーチ

たいぞくかんがっきふるす  
「倭族管楽器胡蘆絲について」

米山奨学生 余子慶 氏

(7) 10月10日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
85	83	68	81.93

Zoom 参加 9名

次週10月17日は

卓話「ブランドパーパス：その企業やブランドは  
何のために社会に存在するか？」

(株)新潟博報堂 マーケットデザイン局

局長 日下部浩一 氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

新潟ロータリークラブ  
国際奉仕委員会報告

国際奉仕員長 徳永 昭輝  
内山年度の国際奉仕委員会の活動方針、地区補助金によるミャンマー医療支援：

1. ミャンマーサンピア病院救急医薬品サポート
2. 寄贈した超音波診断装置メンテナンスサポート

令和5年7月22日、国際ロータリー第2560地区、2023-24年度、ロータリー財団地区補助金申請が承認されました。

補助金事業を実行するために、内藤眞先生がミャンマーのヤンゴンにいかれるということで9月24日から9月28日同行してミャンマーサンピア病院を訪問して来ました。

現地の内科医 YADANA 先生に訪問前に寄贈する救急医薬品を準備頂き、9月25日新潟からの寄贈品として病院長に直接渡してきました。

ミャンマーを訪問して感じたことは2021年2月国軍によるクーデターで、一見平穏な状況でしたが、サンピア病院を訪問して極度の貧困の中で生活する市民、教育や医療など基本的なサービスの利用が制限されていることを目の当たりにしてきました。

スタッフ不足、クーデター前の医師は1/2、看護師は1/3、技師1/3に減少し、外来・入院患者さんとも半減以下の状況になっていました。2018年2月に訪問した時には産婦人科病棟の廊下は患者さん家族であふれていました・・・。

内藤先生は、コロナ高で学会出張などが出来

なかつ

ため、病院からの出張旅費を蓄財し、教科書を購入、また病理組織検査の免疫染色抗体を大学や病院の病理学教室・検査室に寄贈するためにミャンマー

訪問を計画されました。また、病院への炊飯器の贈呈や新潟米を寄贈され20年余のミャンマー医療支援をボランティア活動されています。

今回の訪緬（ミャンマー訪問）で、

- ①サンピア病院に緊急性の高い緊急医薬品を寄贈してきました。
- ②2019年新潟の国際奉仕活動としてグローバル補助金で寄贈した超音波診断装置が今でも高い稼働率で医療貢献をしていた。
- ③ミャンマーの医療は2021年2月1日の軍クーデター以降、市民の抵抗活動が根強く、公的病院医療関係者は半数以下に減少し患者の受け入れも激減し医療崩壊に近い状況に陥っている。
- ④最大都市ヤンゴンの治安状況は落ち着いてきており、支援活動可能であり、強く求められている。
- ⑤このような難局にこそ、ロータリークラブは持続的な支援をすべきだと考える。

## 2023年9月25日 サンピア病院に薬剤の寄贈



### 薬品のリストと領収書 Donation list of Niigata RC

Name Unit	unit	Price	Amount	Discount	Total
Vinler 4000	90 vials	33,000	2,970,000	527,670	2,442,330
Cefnidol infusion 1000mg/ml	200	5,500	1,100,000	11,000	1,089,000
NRB Panadol suppositories	80	5,500	440,000	0	440,000
Zandon -5 610 tab	68	41,480	2,822,360	0	2,822,360
3% NS 599 rlc	5	3,800	19,000	0	19,000
					<b>Total 4,037,730</b> <b>(日本円約287万円)</b>



腎性貧血治療薬 鎮痛・解熱剤 解熱・鎮痛薬 鎮痛剤・抗炎症薬 生食

### ミャンマーサンピア病院の産科病棟

2018.2.15/PM08



産育室に新生児が2人到着  
産婆さんへがむらあして



